

ブラジャーの運動によるズレについて

○菊池直子* 久慈るみ子**

(*県立盛岡短大, **尚綱女学院短大)

〈目的〉身体に適合するブラジャーの選択は、アンダーバストとカップのサイズが目安となり、試着によって適合性が確認される。しかしながら、身体が動くと皮膚が伸縮するため、サイズ適合者においてもズレが生じて不快感を経験することがある。ブラジャーのズレは、着心地を含めた運動適応性を検討する上で重要な問題である。ズレの生じる部位は着用者の体型などによっても異なるが、本実験ではブラジャーのカップ部と下辺部に注目し、カップ形態の異なる2種類を用いてサイズ適合者における運動時のズレをとらえた。

〈方法〉被験者は2名である。試料はフルカップ型と3/4カップ型の2種類である。測定部位はブラジャー下辺部に5ヶ所（左右の脇線との交点、左右の乳頭線との交点、前正中線との交点）、カップ部に左右全体を網羅するように28ヶ所を設定した。立位正常姿勢で各部位の位置を人体に印したあと、運動の再現性の得られるラジオ体操第1を3回行い、体操を1回終了する度に各部位の位置を印した。立位正常姿勢時を基準点とし運動終了時の2点間距離をズレ量として測定した。これを6回繰り返し測定した。

〈結果〉3回の運動によるズレ量の経時的な変化をみると、1回目はズレ量が大きくあられわれ2、3回目の変動は小さい。ズレ量の分布では、脇に近い部位ほどズレ量が大きく皮膚の変形の影響が認められた。一方、カップの上部や前正中線上は比較的小さい。左右のズレ量を比較すると、フルカップ型では左右ともズレの大きさがほぼ等しいが、3/4カップ型では右側が左側よりやや大きく左右でズレの大きさが異なる傾向が認められた。試料間ではズレ量に有意な差は認められなかった。